

幹事長日誌（平成16年1月～12月）

栗原誠一

- 1月15日（木）： 広報委員会。恒例となった？「神皮」メンバーの初顔合わせ
- 1月17日（土）： 常任幹事会
- 2月1日（日）： 日臨皮三支部役員会、引き継ぎ会
平成16年4月より、南関東山静支部の事務局が神奈川に回ってくる
支部長は菅原 信、事務局長は金丸哲山、事務局は金丸皮膚科
- 2月5日（木）： 在宅医療部会：第11回在宅医療勉強会（兼委員会）
「在宅における褥瘡治療の諸問題」、大浦武彦先生と浅沼廣幸先生：123名
- 2月7日（土）： 産業医委員会
- 2月19日（木）： 臨時常任幹事会
議題は1つだけ：平成16～17年度の幹事選任作業：候補者の選定
今回から、よりオープンな形での幹事候補の選び方を導入した
（各地の医会より推薦、大学から推薦、健保審査委員、作業グループ推薦）
- 3月7日（日）： 第114回例会：125名
次期幹事候補のリストを公表し、了承された
厚木市で行われている学校保健パイロットスタディーの報告（小幡秀一）
- 3月11日（木）： 企画委員会
- 3月28日（日）： 日臨皮南関東山静支部総会
予定通り、神奈川に回ってきた。人事も原案通り
- 4月9日（金）： 社保審査委員の交代：高橋泰英→小野秀貴（茅ヶ崎市立病院）
神皮医会が後任の審査委員を推薦するという形で決着した
- 4月14日（水）： IT委員会
- 4月16～18日： 第103回日皮総会（京都）、現地で神皮懇親会を開催した
- 4月27日（火）： 会計監査
- 5月15日（土）： 常任幹事会
- 5月22～23日： 第20回日臨皮総会（東京）、現地で神皮懇親会を開催した
加藤安彦元会長が特別会員に
- 5月29日（土）： 春の勉強会（P-2005関連）
「タバコと皮膚とスキンケア」：51名
- 6月6日（日）： 第27回日本プライマリ・ケア学会
に、座長として増田智栄子を派遣



春の勉強会「タバコと皮膚とスキンケア」において

- 6月19日(土) : 初夏の勉強会 (IT見本市) : 81名
各社の電子カルテを実際に触ることが出来た。デルモスコープも普及するにはそれなりの動機づけが必要だな
- 6月24日(木) : 健保委員会
- 7月1~3日 : かながわ福祉サービス振興会が主催した「アクティブひゅーまんライフ2004」に講師派遣
1日(木) : 感染症 : 林 正幸、3日(土) : 老人の皮膚疾患 : 河原由恵
- 7月4日(日) : 第115回例会ならびに総会 : 136名
平成16年~17年度の役員決定。菅原信会長、毛利忍副会長、栗原誠一幹事長、増田智栄子副幹事長、滝澤清宏監事、花岡宏和監事、常任幹事、幹事、各種委員会など尚、今年度より幹事はいずれかの委員会に所属していただくことになった
- 7月7日(水) : 企画委員会
- 7月15日(木) : 常任幹事・委員長会議、兼学術・サーベイランス委員会
常任幹事でない委員長がおり、「常任幹事会」を「常任幹事・委員長会議」とすることにした今回は活動が期待される、学・サ委員会と合同で開催した
- 7月27日(火) : 神奈川県医師会主催の健保指導者講習会、渡辺知雄に出席依頼
- 8月26日(木) : 広報委員会
- 8月30日(月) : P2005委員会
真夏の夜にビールを飲みながら作戦会議
- 9月2日(木) : 学術・サーベイランス委員会
- 9月9日(木) : 在宅医療部会 : 第12回在宅医療勉強会 (兼委員会)
「褥瘡ケアのUP TO DATE」真田弘美先生 : 175名
- 10月2日(土) : 産業医委員会
- 10月16日(土) : 常任幹事・委員長会議
①たまたま、菅原会長と毛利副会長は別に用件が生じて欠席
毎年決まっている日程なので、これからも役員が欠席でも開催することにした
②第21回日臨皮総会での特別シンポジウム「タバコと皮膚」の詳細を決定
総合司会 : P2005責任者 木花 光
1) 医会紹介 : 10分←医会の役員
2) タバコの歴史 : 20分←たばこと塩の博物館学芸課長 半田昌之
3) タバコと皮膚のEvidence :
a) 幸野 健* 30分 シミしわ以外のEvidence紹介 (タバコの害も含めて)
b) 溝口昌子 20分 シミしわとタバコ
4) アンケートの結果報告 : 30分←原 尚道
5) まとめと展望 : 10分←木花ほか
*幸野先生は大阪在住ながら神皮の会員
- 10月31日(日) : ①雪下國雄先生を講師に迎えるにあたり、日医に派遣依頼状を送った
②日臨皮本部の理事会の場で、神皮産業医委員会で話題になった事項を、菅原信日臨皮副会長と鎌田英明日臨皮常任理事より伝えていただいた。
「神奈川県皮膚科医会からの要望として、産業医活動を高めるために、日臨皮本部にも産業医委員会 (仮称) を設置していただきたい」
加藤友衛日臨皮会長より、前向きにご検討いただける旨ご回答いただいた由
- 11月11日(木) : 学術・サーベイランス委員会
11月~12月にかけて、「タバコと皮膚のアンケート」調査が開始された。幹事会メンバーな

どの協力施設で、各100例を無作為に調査する。総計6000例以上、実に興味深い

- 11月14日（日）：「皮膚の日」行事、横浜市教育文化ホール：230名
今年は、野村有子担当幹事の奮闘で、一大イベントとなった
テーマ「かゆみとその対策」、相原道子講師。参加者にはお土産も付いて、大盛会であった
- 11月21日（日）：神奈川県医師会より神奈川県皮膚科医会に対して、
「平成17年度学校・地域保健連携推進事業」に関わる担当役員と専門医の推薦依頼があった。この事業は、学校保健における専門（相談）校医構想の具体化。文科省が各県の教育委員会に委託し、県医師会に協力要請があったもの。平成17年度は平塚市医師会が請け負ったため、平塚市の皮膚科医も神経科や婦人科、整形外科の医師らとともに専門相談校医として“おためし”活動することになった。担当役員は、県の学校保健委員でもある武沼永治、平塚市の専門医は大倉光裕と栗原誠一
- 11月23日（火・祝）：①日臨皮三支部合同学術集会。今年から三支部合同は11月だけになった
②神奈川医学会総会・学術大会。毎年日臨皮と日程が重なるので、やりくりし苦勞させられる。毛利忍、木花光に出席依頼
- 11月27日（土）：学校保健委員会
- 12月1日（水）：健保委員会
- 12月5日（日）：第116回例会：126名
①神皮に女医部隊（仮称）登場。女性会員相互の連携を図り、女性の視点で医会を盛り立てる活動。きめ細かい女性のアイデアを提案していきたいと
②会員動向（11月27日現在）：正会員496名、法人会員54社
物故会員：4月23日 田所瑞穂先生
8月13日 塩谷千賀子先生
- 12月8日（水）：企画委員会
さすがの皆さんも、今年の疲れが出たらしく、2次会もなく帰宅の途に

（抜粋、敬称略）

〈後記〉

パソコンのデスクトップにおいてある備忘録や、携帯電話に残ったスケジュール表、医会のホームページなどをもとに、今年を振り返りながら原稿をまとめました。たった1年なのに、実に色々なことがありました。年の初めは、新たに導入した「医会幹事の選び方」を7月の総会に間に合わせて結実していただくよう、幹事や委員の皆様には臨時の集まりなどでご面倒をおかけしました。厚く御礼申し上げます。まだまだ埋もれた人材が多く、活躍していただく場を提供することが幹事長の使命と思っていますので、これからも宜しくお付き合い下さい。

夏～秋は、P2005のお尻に火が迫ってきました。特に木花、浅井、原諸氏の頑張りで、何とかデータはまとまりそうです。平成17年6月の日臨皮学術大会に参加して、医会が請け負った「特別シンポジウム：タバコと皮膚」を是非お聞き下さい。ところで、この企画は滝沢清宏先生が「誰かさんのタバコを止めさせる意図」も含んで発案されたという、うちの話はご存知でしたか？ いずれにしろ、世界初のアンケート結果が楽しみです。

冬になって、学校保健がついに我が身のこととなりました。この文章が皆様の目にふれる頃にはアゴを出しているかもしれません。おっと、こんな弱気を言っていると黄泉の塩谷千賀子あねごに怒られそうです。厚木で実績を挙げている小幡先生や、日医や文科省まで出向いて頑張っている岩井先生の努力を無駄にしないよう、皮膚科医の名に恥じない働きをしようと思います。

平成16年 師走

在宅医療部会だより

栗原誠一、増田智栄子、浅井俊弥
野村有子、林 正幸、渡辺知雄

第11回在宅医療勉強会報告

日 時：平成16年2月5日（木）午後7時

会 場：ホテルキャメロットジャパン

参加者：医師56名、コメディカル67名；計123名

共 催：鳥居薬品

講演テーマならびに講師：「在宅における褥瘡治療の諸問題」

医療法人廣仁会 褥瘡・創傷治癒研究所所長

日本褥瘡学会理事長 大浦武彦先生

講演内容：

まず、話題提供として、医療法人廣仁会理事長浅沼廣幸先生から札幌における廣仁会グループの在宅活動の紹介がありました。数名の医師と看護師と運転手がチームを組んで皮膚科疾患の往診に出かけるシステムですが、薬剤、衛生材料、顕微鏡や処置に使用するベッドを兼ね備えた「ひふみ号」という機能満載の往診車を活用されています。在宅医療を行うことは地域に根ざす医療の信頼度を高める効果があると力説されました。

次に本題の大浦武彦先生の「在宅における褥瘡治療の諸問題」の講演です。

- ①褥瘡危険要因（OHスケール）によって、自立体位変換（意識状態、麻酔、麻痺、安静度）、病的骨突出（仙骨部）、浮腫、関節拘縮の4点からリスクを評価点数化し、レベル分けをして、看護計画、栄養管理計画、体圧分散マットレスを選択し、治療計画をたてる。
- ②圧分散マットレスを上記リスクにあわせて早期から使用することによって30%くらい褥瘡発症率を低下させることが出来る。
- ③今までは褥瘡の発症原因は体圧×時間と考えられてきたが、頭側アップダウンの動作後のずれ力、圧力を測定したところ、もとに戻らないことが測定され、ずれ力、圧力、引張を含めた応力×時間×頻度が褥瘡発症の原因と考える。シーツは滑りにくい素材より、すべりの良い素材のほうがずれない。
- ④褥瘡の治療は、壊死組織がある場合は、まずデブリードマンをしてカデックスやユーパスタ等を使用し、良性肉芽となってきたら、フィブラストスプレー、オルセノン、アクトシン等またはアクアセル、ティエールなどの創傷被覆剤を有効に使う。
- ⑤在宅における問題点は多々あるが、患者家族、医師、看護師、ケアマネージャー、ヘルパー、訪問リハと一緒にトータルケアをすることが望ましい。

大浦武彦先生のホームページを参考にして下さい。 <http://www.jokuso-dr-ohura.ne.jp/>

（文責：在宅医療部会 増田智栄子）



日本褥瘡学会理事長、大浦武彦先生

第12回勉強会報告

日 時：平成16年 9 月 9 日（木）午後 7 時

会 場：ホテルキャメロットジャパン

参加者：医師50名、コメディカル125名；計175名

共 催：興和株式会社

プログラム： 司会 袋 秀平

19：00 学術製品説明 興和株式会社学術課 加藤ゆかり

19：15 開会の辞 菅原 信

19：20 「アンケートの結果と分析」 野村皮膚科医院 野村有子

19：35 講演会 座長 増田智栄子

「褥瘡ケアのUP TO DATE」

東京大学大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻老年看護学分野教授 真田弘美先生

21：00 閉会の辞 栗原誠一

興和挨拶 興和株式会社横浜支店支店長 萩原正三

講演内容：

テーマ：「褥瘡ケアのUP TO DATE」

講 師：東京大学大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻老年看護学分野教授 真田弘美

7月にパリで開催された世界創傷学会は約5000人の参加があり大変盛会であった。私もこの学会では創部アセスメントツールについてのテーマでシンポジストとして発表する機会を得た。日本褥瘡学会が考案したDESIGNツールの有効性について述べたが、発表後さまざまな国の看護師からフロアーで質問を受けた。その内容の多くは学術的というより、日本の褥瘡管理における看護師の役割について、その実際を知りたいといった内容であった。革新的なドレッシング材やサイトカインなどの治療方法が語られるなかで、いずれの国でも現場の看護師たちは、その創をどのようにアセスメントし、どのように管理したら良いのかその情報を使い切れずに悩んでいることを実感した。このことは、臨床に根ざした研究が不十分であることに起因するといっても過言ではない。

そこで、今回の講演では2002年の未実施減算以来、何が新しく研究され、どこまで臨床での有効性が確かめられているのか、また、そのエビデンスを看護師の立場でまとめてみた。最もホットなニュースを含め、下記の内容について詳しく述べる。

・褥瘡ケアの進化

- 在宅用褥瘡発生予測スケールの有効性
- 褥瘡が悪化する時の早期発見方法
- 治療に役立つ褥瘡部アセスメントツールの使い方
- 褥瘡予防に特化した新しい皮膚保護剤の有効性
- 褥瘡部看護基準アルゴリズムの開発とその経済評価

当日は、医師50名とコメディカル125名の計175名の出席で、会場は満席で、熱気ムンムンしていました。真田先生は、最新情報をご報告なされ、とくに褥瘡発生予測スケールや治療用アセスメントツールの開発など、まさにこれからは、褥瘡治療に医者いらずの時代到来を思わせるようなすばらしい内容でした。真田先生のパワーには、もう感激!!!でした。

尚、講演内容の要旨は真田先生からご提供いただきました。ありがとうございました。

（文責：在宅医療部会 野村有子）

広報委員会だより

木花 光

平成16年度になり、委員の交代がありました。厚木地区の重鎮になられた林正幸先生と、在宅医療部会長および「いい皮膚の日」担当になられた野村有子先生がやめられました。幹事は委員会のどれかには所属すべしとの栗原幹事長のお考えで、新委員として、相川洋介、伊東慶悟、馬場直子、山本修の各先生をお迎えしました。御活躍が期待されます。あとは以前からの浅井俊弥、川口博史、塩谷千賀子、宮本秀明の各先生と私で、計9人と大所帯になりました。8年前に私が委員になった時は日下部芳志委員長と塩谷先生の3人だったのですが。

其の、8年の永きにわたり本誌発展のために御尽力いただいた塩谷先生が、平成16年8月13日に亡くなられました。化学療法を受けられながらも、当委員会にこやかに御出席されていたのが強く印象に残っています。心より御冥福を祈ります。

本年度第1回の広報委員会は平成16年8月26日に塩谷先生への黙祷で始まりました。11号の第111回例会の抄録で、内山光明先生の玉稿の一部が掲載されていなかったことを反省しました。内山光明先生には、この場をお借りして深くおわびします。12号の内容としては、シリーズ・病院も軌道に乗ってきたことであるし、このまま続けることが同意されました。

中野祐美子様の表紙の絵は大好評で続けたかったのですが、本業（鳥専門の獣医師）がさらに忙しくなられたとのことで、断念しました。馬場新委員の亡くなられたお父様が、趣味で油絵を描かれていたとのことで、神奈川に因んだ絵を馬場先生に選んでいただくことにしました。

広報委員会の活動結果はすべて本誌に現われています。いかがでしょうか。

やめるにやめられぬ特別付録



やせていても、力はあります!? (小豆島、二十四の瞳映画村にて)

学校保健委員会だより

岩井雅彦、北原敬二、村上通敏、武沼永治
田辺俊英、小幡秀一、大倉光裕

今年度の活動報告をさせていただきます。

1. 神奈川県皮膚科医会

- 1) 学校保健委員会（平成16年11月27日）出席者：村上通敏、武沼永治、田辺俊英、小幡秀一、大倉光裕、岩井雅彦
- 2) 第116回例会（平成16年12月5日）
「今後の学校保健の課題—特に専門（相談）校医について—」
講演：雪下國雄先生（日本医師会常任理事）

2. 神奈川県医師会学校医部会

- 1) 第3回幹事会（平成16年2月24日）出席者：武沼永治
- 2) 第4回幹事会（平成16年6月4日）出席者：武沼永治
- 3) 第3回委託事業推進委員会（平成16年7月22日）出席者：武沼永治
- 4) 第5回幹事会（平成16年11月24日）出席者：武沼永治
- 5) 平成17年度学校・地域保健連携推進事業実施に係る打合せ（平成16年10月27日）
出席者：菅原信、岩井雅彦
文部科学省平成17年度事業「学校専門校医（専門相談医）制度」の参画地域は平塚市に決定。

3. 専門校医モデル事業委員会（厚木市）

- 1) 緊急会議（平成16年6月17日）出席者：小幡秀一
- 2) 実行委員会（平成16年7月15日）出席者：小幡秀一
- 3) 実行委員会（平成16年8月2日）出席者：小幡秀一

平成16年10月31日に第35回全国学校保健・学校医大会（福島県）が開催され、厚木市専門校医（専門相談医）モデル事業について報告：三宅正敬先生（厚木市医師会理事）

4. 日本臨床皮膚科医会：学校保健委員会

- 1) 学校保健推進委員および都道府県学校保健推進委員合同委員会
（平成16年5月23日、東京ホテルオークラ）出席者：岩井雅彦
議題1. 会長諮問「学校保健活動推進へ向けての新たな方策の検討」について—
委員会答申〔日臨皮会誌No.81掲載〕
2. 学校伝染病について（案）〔日臨皮会誌No.79、平成16年50頁記載〕の経過報告
3. 環境省編冊子『紫外線保健指導マニュアル』について〔会誌発送封筒にチラシとして挿入済〕
4. 「精神科・産婦人科・整形外科・皮膚科専門相談医が連携して活動する学校健診事業—
モデル地区厚木市」の経過報告

5. 「文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課管轄の平成16年度事業に新たに学校専門校医（専門相談医）制度事業が加わり、そして予算措置がなされた」ことについて
- 2) 第1回学校保健推進委員会（平成16年6月13日、日臨皮事務所）出席者：岩井雅彦
議題1. 文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課管轄の平成16年度事業「学校専門校医（専門相談医）制度」参画対策
2. 会長諮問「学校現場におけるアトピー性皮膚炎児の健康教育・管理上の諸問題」
- 3) 第2回学校保健委員会（平成16年12月19日、日臨皮事務所）出席者：岩井雅彦
議題1. 文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課管轄の平成16年度事業「学校専門校医（専門相談医）制度」参画状況調査結果と今後の対策
2. 日本医師会学校保健委員会報告
3. 学校伝染病について（案）の経過報告
4. 文部科学省アレルギー疾患に関する調査研究委員会報告
5. 会長諮問「学校現場におけるアトピー性皮膚炎児の健康教育・管理上の諸問題」

今年度、学校専門校医（専門相談医）制度の実現にむけて文部科学省では、このモデル事業に対し2億1000万円の予算措置がなされた。都道府県教育委員会—都道府県医師会—地区医師会の流れで専門校医（専門相談医）派遣事業が開始された。

日本臨床皮膚科医会、各都道府県学校保健委員の先生へ本モデル事業への参画状況アンケート調査を施行。参画できたのは47都道府県中、皮膚科12県（26%）、精神科25県（53%）、整形外科14県（30%）、産婦人科21県（45%）。精神科が多いのは、従来より地域推進連携事業が行われているため。また、4科で参画している県は、神奈川・千葉・兵庫・広島・愛媛・佐賀・熊本・宮崎の8県。

皮膚科が参画できなかった最も大きな原因は、皮膚科が各都道府県医師会の学校保健委員会（学校医部会等）に入会されていないためと思われる。来年度に向けて、各都道府県医師会の学校保健委員会に入れていただくことが最も重要であると思われる。

学校保健において皮膚科の地位を確立していくために、来年度は全国で過半数の県で参画できるように努めていきたい。

5. 日本医師会学校保健委員会

- 1) 第1回学校保健委員会（平成16年9月9日）出席者：岩井雅彦
 - 2) 第2回学校保健委員会（平成16年11月4日）出席者：岩井雅彦
- 日本医師会主催の平成16年度学校医講習会（平成17年2月26日）のシンポジウムは、専門校医（専門相談医）について行うことに決定。

6. 文部科学省アレルギー疾患に関する調査研究委員会

（平成16年11月9日）出席者：岩井雅彦

〈趣旨〉近年、児童生徒にぜん息をはじめ各種アレルギー疾患の増加が見られるところであり、アレルギー対策について検討することが極めて重要、かつ喫緊の課題となっている。

このため、児童生徒の各種アレルギー疾患の実態等について調査を行い、その調査結果の分析・研究を行うとともに、今後の学校におけるアレルギー対策のための支援方策の検討を行い、その対策の推進を図る。

7. 座談会：皮膚科と学校保健—皮膚科専門相談医の実現に向けて—

（平成16年11月12日）出席者：雪下國雄先生、日野治子先生、岩井雅彦（月刊「皮膚病診療」Vol.27、No.3掲載予定）

産業医委員会だより

平松正浩

産業医委員会は元会長の加藤安彦先生、茅ヶ崎医師会長の新関寛二先生、川崎市医師会理事の佐藤龍男先生、現役の幹事長の栗原誠一先生とそうそうたるメンバーが揃っていながら一番年下の私が何故か委員長を務めているというとても不思議な委員会です。新たに黒澤傳枝先生、宋寅傑先生にメンバーとして加わっていただき、10月2日に委員会を開催しました。宋先生から「委員長の顔と名前がたまたま一致して、仕事の分担が他の委員会に比べ少ないので委員になった」と素晴らしい新任のご挨拶があり、委員会の雰囲気ぐっと和みその後活発な議論ができました。

今回の委員会で

- ・職業性皮膚疾患のアンケート調査を行う（日野治子先生）
- ・産業医委員会主催の講習会の企画を検討する（栗原先生）

という提案があり今後徐々に具体化していく予定です。

また日本臨床皮膚科医会に産業医委員会がない現状を憂慮し、産業医委員会の設立を切望する（新関先生）との貴重なご意見があり、菅原信会長、鎌田英明常任幹事より日本臨床皮膚科医会の加藤友衛会長に提言がなされ、前向きに検討するとのご回答をいただきました。

懇親会では宋先生、吉田秀也先生、栗原先生を中心にさらに活発な議論が展開され、終り頃には紹興酒の空き瓶が山のように並んでいました。加藤安彦先生から次回の委員会は中国の西安で開催しようとの素晴らしい一言もありさらに盛り上がりました。

産業医委員会はなくてはならない委員会ですが、現時点での花形分野ではありませんので会員の要望があった時に応えられるという体制作りをまず行いたいと思います。職業性皮膚疾患ばかりでなく、過重労働、健康診断、針刺し事故、喫煙など医師自身の問題も産業医学の分野に含まれます。意外に身近な問題も多くありますので委員会に興味をお持ちの会員は一度でもいいので委員会に参加してください。次回は西安になるかもしれませんが、仕事を押し付けられる心配もありません。委員長自身、「産業医は仕事をしすぎるのはよくない。会社に嫌われるよ」との大学(産業医大)の同級生の教えを忠実に守るつもりです。

IT委員会だより

浅井俊弥

●IT機器勉強会開催

IT委員会では、平成16年6月19日の地方会終了後、「初夏の勉強会」と称して電子カルテをはじめとするIT機器の展示、説明会を開催しました。プログラムは次頁の通りです。81名という多くの参加者があり、関心の

高さを物語っていました。今回は主として開業医療機関向けの内容でしたが、次回は病院と電子カルテ、地域医療連携をテーマに勉強会を企画する予定です。なお、今回の勉強会の返信はがきに添えたITならびにデジタル機器の利用度のアンケート結果を下に示します。なお詳細は、平成16年12月発行の皮膚病診療(26:1567~1572)に掲載されましたので、ご覧いただければと思います。

医会のホームページは開設後1年を経過しました。医院検索には1日100件から200件のアクセスがあり、一般の方々にもずいぶんと浸透してきたようです。各種の検索エンジンでも、上位にランクされるようになってきました。ただし会員ページへの入場はあまり多くはありません。今後は、会員の皆様にも魅力のあるホームページにしていきたいと思えます。

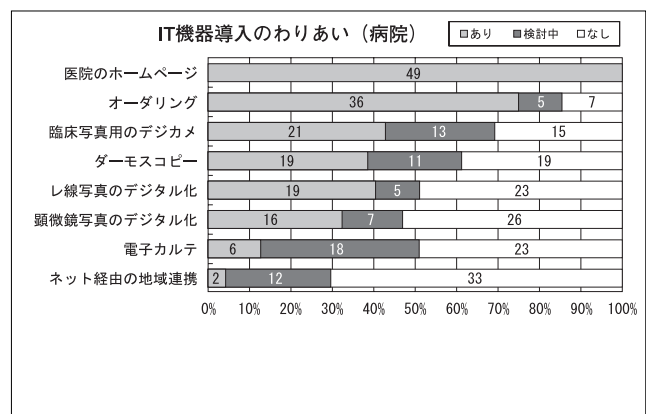
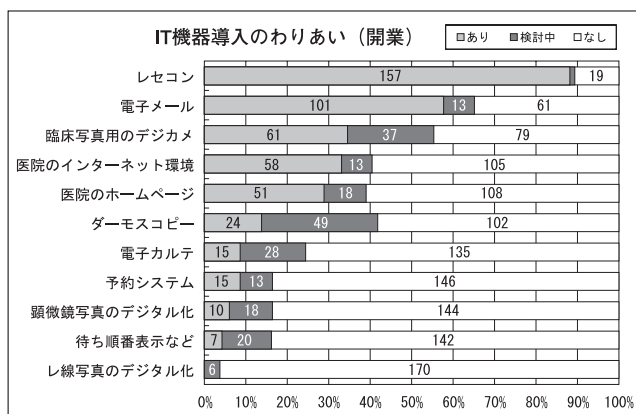
委員会のもう1つの懸案事項は、平成17年4月1日に施行される「個人情報保護法」と医療の関わりについてです。一方では情報公開を原則とする医療制度の中に、単純に考えれば相反する制度がどのように組み込まれて機能していくのか、勉強していきたいと考えています。

当委員会も新しいメンバーが加わりました。委員長の不手際で活発な活動はできておりませんが、個人情報保護法の勉強会を皮切りに、みんなの知恵を絞って、医会や会員の皆様に貢献していきたいと考えておりますので、今後ともご意見・ご批判をお願い致します。

(IT委員会：浅井俊弥、天野隆文、菅野聖逸、栗原誠一、杉田泰之、戸沢孝之、長島典安、野村有子、袋 秀平、矢口 厚)



昆虫生態写真家の栗原慧さん(左)と



●初夏の勉強会

日 時：平成16年6月19日(土)午後5時25分

会 場：パシフィコ横浜会議センター502号

参加費：1000円

プログラム：

I：「抗アレルギー薬の変遷と最近の治療」 ユーシービージャパン株式会社 笹本 洋

II：電子カルテの現状と使用経験 (バンダーのプレゼンテーション+Drのコメント)

1 BML

(Medical Station)

高橋泰英

- | | | | |
|---|------------|----------------------|-------|
| 2 | 三洋メディコム | (Doctor's Partner) | 栗原誠一 |
| 3 | 日立ソフテック | (Dynamics) | 杉田泰之 |
| 4 | システムロード | (RACCO) | 浅井俊弥 |
| 5 | ユイコンサルティング | (ドクターソフト) | 上村仁夫 |
| 6 | 島津製作所 | (Sim Clinic) | 川口とし子 |
| 7 | イーホープ | (あんしんチャート+音声入力アミボイス) | |

Ⅲ：デジタルイメージングデバイス

- | | | |
|----|-----------|--------------------|
| 8 | キーエンス | (デジタル顕微鏡) |
| 9 | クリニカルサプライ | (ダーモスコピー用アダプター) |
| 10 | 美館イメージング | (顕微鏡用デジカメラアダプター) |
| 11 | インフォワード | (肌画像解析システム) |
| 12 | インテグラル | (レーザードップラー血流画像化装置) |

Ⅳ：情報交換会と商品展示

共催：神奈川県皮膚科医会 (IT委員会)、第一製薬株式会社

部会報告

皮膚病サーベイランス 委員会だより



向井秀樹

第3回神奈川県皮膚病サーベイランスは、平成16年7月26日(月)～31日(土)のうち5日間に実施した。今回、新たに安藤巖夫先生(帝京溝の口)および杉田泰之先生(保土ヶ谷区)の2施設に加わって頂いた。新たに部長ないし医長になられた福永有希先生(国立相模原)および岡沢ひろみ先生(横浜日赤)には、引き続き参加して頂いた。今回が3回目でかなり慣れて頂いたこと、実施期間を第1回の8月第1週目から7月最終週としたことで脱落施設が大幅に低下した。38施設において、以下の37施設から集計用紙が送られてきた。

◎参加施設(病院10、開業27)

病院：一山伸一(横須賀共済)、鎌田英明(社保横浜中央)、福永有希(国立相模原)、菅原 信(けいゆう)、岡沢ひろみ(横浜日赤)、宮川俊一(市立川崎)、向井秀樹(横浜労災)、毛利 忍(横浜市民)、山田裕道(国際親善)、安藤巖夫(帝京溝の口)

開業：野村有子(神奈川区)、滝沢清宏(西区)、浅井俊弥・杉本純一・杉田泰之(保土ヶ谷区)、荻谷英郎(緑区)、増田智栄子(泉区)、岩井雅彦(青葉区)、伊東文行(都筑区)、村上通敏(港南区)、平松正浩(港北区)、菅野聖逸・望月明子・佐藤龍男(川崎市)、金丸哲山(横須賀市)、武沼永治・松井潔(藤沢市)、生野重

明・北原敬二（大和市）、田辺俊英（相模原市）、林 正幸（厚木市）、米元康蔵（海老名市）、栗原誠一（平塚市）、加藤禮三（伊勢原市）、長島典安（秦野市）、日下部芳志・戸澤孝之（小田原市）

年齢別の集計結果（表1）をみると、伝染性軟属腫や膿痂疹は乳幼児期に好発するが、带状疱疹や疥癬は多く見られる。成人の風疹や麻疹の流行が社会問題となったが、今回の集計では症例数は合わせて2例に過ぎなかった。性別・定点毎の集計結果（表2）では、外陰ヘルペスや尖圭コンジローマは男性に多く見られたのに対し、青年性扁平疣贅や伝染性紅斑は女性に多い傾向が見られた。定点毎に見て、尋常性疣贅が最も多く見られ、次いで伝染性膿痂疹、軟属腫、带状疱疹、単純ヘルペスの順である。過去3回のデータを定点毎に比較した（表3）。第1回（夏）と第2回（冬）の定点毎の症例数を比較すると、71.3例から44.9例と明らかに減少し

表1：第3回神奈川県皮膚病サーベイランスの集計結果（年齢別）

| 疾患／年齢 | 0～4 | 5～9 | 10～14 | 15～19 | 20～29 | 30～39 | 40～49 | 50～59 | 60～69 | 70～ | 小計 |
|-------------|-----|-----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-----|------|
| ①単純性ヘルペス | 3 | 11 | 5 | 7 | 24 | 17 | 11 | 15 | 7 | 14 | 114 |
| ②外陰ヘルペス | 1 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 0 | 1 | 1 | 7 |
| ③カポジー水痘様発疹症 | 2 | 1 | 0 | 1 | 3 | 1 | 2 | 0 | 1 | 0 | 11 |
| ④水痘 | 4 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 7 |
| ⑤带状疱疹 | 2 | 4 | 2 | 1 | 16 | 16 | 17 | 31 | 45 | 57 | 191 |
| ⑥手足口病 | 3 | 2 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 7 |
| ⑦尖圭コンジローマ | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 0 | 4 | 1 | 1 | 0 | 9 |
| ⑧尋常性疣贅 | 29 | 226 | 165 | 82 | 178 | 197 | 110 | 103 | 76 | 83 | 1249 |
| ⑨青年性扁平疣贅 | 10 | 5 | 2 | 1 | 7 | 11 | 7 | 9 | 3 | 1 | 56 |
| ⑩伝染性軟属腫 | 103 | 102 | 10 | 13 | 2 | 5 | 2 | 1 | 1 | 0 | 239 |
| ⑪風疹 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| ⑫麻疹 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ⑬伝染性紅斑 | 3 | 4 | 1 | 0 | 2 | 2 | 1 | 0 | 0 | 0 | 13 |
| ⑭乳児多発性汗腺膿瘍 | 7 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 8 |
| ⑮伝染性膿痂疹 | 323 | 254 | 39 | 7 | 10 | 10 | 3 | 1 | 4 | 4 | 655 |
| ⑯SSSS | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| ⑰疥癬 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 | 1 | 0 | 2 | 3 | 10 |
| 痂皮型疥癬 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ⑱毛ジラミ症 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 1 | 0 | 0 | 0 | 3 |
| ⑲頭ジラミ症 | 3 | 4 | 1 | 0 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 11 |
| ⑳梅毒（不顕性を含む） | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 3 |

表2：第3回サーベイランスの集計結果（性別、定点毎）

| | 小計 | 男性 | 女性 | 男／女 | 定点毎（36） | 順位 |
|-------------|------|-----|-----|------|---------|----|
| ①単純性ヘルペス | 114 | 48 | 66 | 0.73 | 3.2 | 5 |
| ②外陰ヘルペス | 7 | 5 | 2 | 2.5 | 0.2 | |
| ③カポジー水痘様発疹症 | 11 | 5 | 6 | 0.83 | 0.3 | |
| ④水痘 | 7 | 7 | 0 | | 0.2 | |
| ⑤带状疱疹 | 191 | 82 | 109 | 0.75 | 5.3 | 4 |
| ⑥手足口病 | 7 | 4 | 3 | 1.33 | 0.2 | |
| ⑦尖圭コンジローマ | 9 | 7 | 2 | 3.5 | 0.3 | |
| ⑧尋常性疣贅 | 1249 | 602 | 647 | 0.93 | 34.7 | 1 |
| ⑨青年性扁平疣贅 | 56 | 13 | 43 | 0.3 | 1.6 | |
| ⑩伝染性軟属腫 | 239 | 115 | 124 | 0.93 | 6.6 | 3 |
| ⑪風疹 | 2 | 2 | 0 | | 0.1 | |
| ⑫麻疹 | 0 | 0 | 0 | | | |
| ⑬伝染性紅斑 | 13 | 1 | 12 | 0.08 | 0.4 | |
| ⑭乳児多発性汗腺膿瘍 | 8 | 4 | 4 | 1.00 | 0.2 | |
| ⑮伝染性膿痂疹 | 655 | 369 | 286 | 1.29 | 18.2 | 2 |
| ⑯SSSS | 1 | 0 | 1 | | | |
| ⑰疥癬 | 10 | 4 | 6 | 0.67 | 0.3 | |
| 痂皮型疥癬 | 1 | 1 | 0 | | | |
| ⑱毛ジラミ症 | 3 | 3 | 0 | | 0.1 | |
| ⑲頭ジラミ症 | 11 | 5 | 6 | 0.83 | 0.3 | |
| ⑳梅毒（不顕性を含む） | 3 | 3 | 0 | | 0.1 | |

た。しかし、第3回では72.1例であり、皮膚感染症は夏に増加することが判明した。疾患毎の比較は、伝染性膿痂疹、軟属腫は明らかに冬に減少するが、カボジー水痘様発疹症や水痘は冬に増加した。一方、带状疱疹、単純性ヘルペスは明らかな増減を見なかった。第1回と第3回の夏どうしの比較は、今年の猛暑を反映してか伝染性膿痂疹の増加が顕著であったが、軟属腫や手足口病は逆に減少傾向が見られた。

今後の当委員会の活動に関して、学術部門を2つに分け、杉田先生を中心とする男性グループと河原先生(けいゆう)を中心とする女性グループに分け、諸問題をアンケート方式で集計する予定である。近々、“非ステロイド外用薬の使用状況”についてアンケートを会員にお願いする予定である。ご協力お願い致します。さらに、皮膚病サーベイランスについて病名を限定して、現在施行している皮膚感染症以外の疾患を対象とするサーベイランスを予定している。

表3：夏期および冬期の罹患症例数（定点毎）

| 第1回（8月） | 71.3例 | 第2回（2月） | 44.9例 | 第3回（7月） | 72.1例 |
|------------|-------|------------|-------|------------|-------|
| 1. 尋常性疣贅 | 33.9 | 1. 尋常性疣贅 | 25.3 | 1. 尋常性疣贅 | 34.7 |
| 2. 伝染性膿痂疹 | 13.4 | 2. 带状疱疹 | 6.1 | 2. 伝染性膿痂疹 | 18.2↑ |
| 3. 伝染性軟属腫 | 8.3 | 3. 伝染性軟属腫 | 3.8↓ | 3. 伝染性軟属腫 | 6.6↓ |
| 4. 带状疱疹 | 6.2 | 4. 単純性ヘルペス | 3.5 | 4. 带状疱疹 | 5.3 |
| 5. 単純性ヘルペス | 4.4 | 5. 伝染性膿痂疹 | 2.3↓ | 5. 単純性ヘルペス | 3.2↓ |
| 6. 扁平疣贅 | 1.0 | 6. 扁平疣贅 | 0.6 | 6. 扁平疣贅 | 1.6↑ |
| 7. 手足口病 | 1.0 | 7. カボジー水痘 | 0.5↑ | 7. 伝染性紅斑 | 0.4 |
| 8. 疥癬 | 0.9 | 8. 水痘 | 0.5↑ | 8. カボジー水痘 | 0.3 |
| 9. 頭ジラミ症 | 0.7 | 9. 疥癬 | 0.4↓ | 9. 疥癬 | 0.3↓ |

